



和歌山城(和歌山市)



重要伝統的建造物群保存地区(湯浅町)



那智山大門坂(那智勝浦町)



橋杭岩(串本町)



高野山 根本大塔(高野町)



川湯温泉(田辺市)

## 和歌山県市町村の 連絡先

申請書類等の詳細については  
各市町村へお問い合わせください。



和歌山県PRキャラクター「まいちゃん」

自治体名	担当課	電話番号
和歌山市(就業)	産業政策課	073-435-1040
和歌山市(起業)	商工振興課	073-435-1233
海南市(就業)	産業振興課	073-483-8464
海南市(起業)	産業振興課	073-483-8460
橋本市	シティセールス推進課	0736-33-6106
有田市	経営企画課	0737-22-3731
御坊市	企画課	0738-23-5518
田辺市	たなべ営業室	0739-33-7714
新宮市	商工観光課	0735-23-3333
紀の川市	地域創生課	0736-77-5077
岩出市	産業振興課	0736-63-5840
紀美野町	まちづくり課	073-495-3462
かつらぎ町	産業観光課	0736-22-0300
九度山町	企画公室	0736-54-2019
高野町	観光振興課	0736-56-2780
湯浅町	総務広報課	0737-63-2525
広川町	企画政策課	0737-23-7731
有田川町	商工観光課	0737-22-4506
美浜町	防災企画課	0738-23-4902
日高町	総務政策課	0738-63-2051
由良町	総務政策課	0738-65-1801
印南町	企画産業課	0738-42-1737
みなべ町	産業課	0739-72-1337
日高川町	企画政策課定住促進室	0738-23-9511
白浜町	総務課企画政策係	0739-43-6598
上富田町	総務政策課	0739-47-0550
すさみ町	地域未来課	0739-55-4801
那智勝浦町	観光企画課	0735-29-2007
太地町	総務課	0735-59-2335
古座川町	地域振興課	0735-72-0180
北山村	総務課	0735-49-2331
串本町	産業課	0735-62-0558

## 和歌山県労働政策課

〒640-8585 和歌山市小松原通1丁目1

Tel ● 073-441-2791

Mail ● e0606003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県移住支援事業(移住支援金)

Moved to  
Wakayama.  
和歌山県に移住し  
中小企業等に  
就職した方に  
または 起業した方に

100万円  
単身の場合は 60万円

和歌山県では、東京23区の在住者または東京圏(東京・神奈川・千葉・埼玉)在住で23区への通勤者が、和歌山県内に移住し、対象法人<sup>(※)</sup>に就職、または、起業した場合に、100万円(単身の場合は60万円)を支給します。

※「和歌山県就活サイクルプロジェクト」の参画企業で一定の要件を満たす法人。

和歌山県では  
全市町村が、  
移住支援金の  
対象エリアです。

詳細は、和歌山県ホームページから  
<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/060600/matching.html>

和歌山県労働政策課





# 移住支援金の対象

次の①・②・③のすべてに該当する方が対象となります。

Moved to Wakayama.

# 移住者インタビュー

和歌山県に移住しようと思ったキッカケは？



## ① 移住元

①東京23区の在住者 または ②東京23区内への通勤者で  
通算5年以上、かつ、直近1年以上(①と②の合算もOK)

対象となる在住者、通勤者の詳細は？  
次のA、Bのいずれにも該当する方が対象となります。

- A 移住する直前の10年間のうち、通算5年以上「23区内に在住」または「東京圏(条件不利地域を除く)に在住し、23区内へ通勤していた方」
- B 移住する直前に、連続して1年以上「23区内に在住」または「東京圏(条件不利地域を除く)に在住し、23区内へ通勤していた方」

※東京圏:東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県  
※通勤の期間については、移住する3ヶ月前までを当該1年の起算とすることができる。

## ② 移住先

和歌山県への移住者(県内全市町村が対象)

移住とは？  
住民票を和歌山県内の市町村に異動し、生活の本拠を当該市町村に移すことをいいます。

いつ移住しても対象になるの？

以下のとおり、期間等に要件があります。

- 支援金の申請時に、移住後3ヶ月以上1年以内であること。
- 移住先の市町村に、支援金申請後5年以上継続して居住する意思があること。

## ③ 就業・起業

①和歌山県がマッチングサイトに支援金の対象として掲載する  
求人へ新規就業した方

マッチングサイトとは？

和歌山県再就職支援センター(はたらコーデわかやま)のホームページです。

<http://www.jobcafe-w.com/re-employment/>

対象となる人材は？

上記ホームページで「移住支援金対象」と掲載されている求人であって、週20時間以上の無期雇用契約の求人が対象です。

対象求人へ採用されたらすぐ申請できる？

就業後3ヶ月以上経過した後に申請ができます。

②起業支援事業の支援金の交付決定を受けた方

起業支援事業とは？

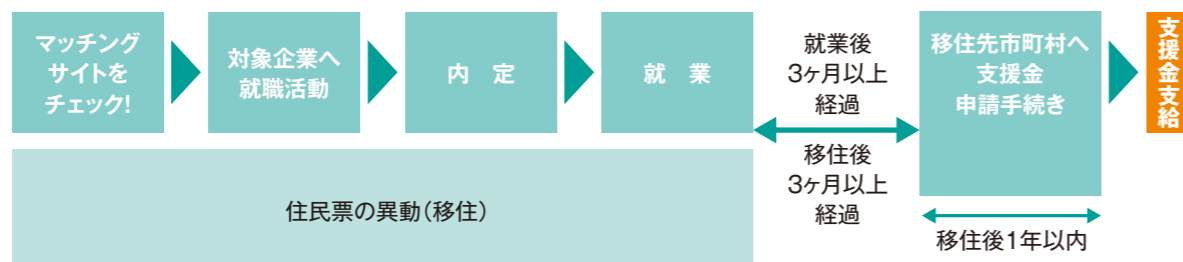
地域課題の解決を目的として新たに社会的事業を和歌山県内で起業する方に対して、起業に必要な経費の一部を補助する事業です。

詳細については

(公財)わかやま産業振興財団 073-432-3220



移住支援金の支給までの流れ



※起業の場合、補助金交付決定日から1年以内、または、移住後1年以内のうち、早い日が申請期限となります。

## 就業

田辺市に移住した  
芝本 駿さん



Q 和歌山に移住しようと思ったキッカケは？

A 田辺市出身の女性との出会いが何よりものきっかけ。彼女とは、いつか自分たちのお店を開こう、と意気投合し、夢を語り合っていました。その中で「出張移住相談デスク」にて、このプロジェクトを知り、結婚生活は彼女の地元でのんびり、夢を見据えて送ろう、と決意しました。

Q 和歌山と東京圏の違いで、一番ビックリしたことは？

A 和歌山では地元を愛し誇る人々から、仕事や私生活においても、情熱をメラメラと感じます。ほかには近所のスーパーでも、新鮮な地物のお刺身が売っていることとか。あと！先日、カブトムシが自宅の前に飛んできて。こんなこと東京では有り得なかったですね。

Q 移住支援金の使い道は？

A 中古車を購入するなど、和歌山での新婚生活基盤を整える為に役立てさせて頂きました。東京では車の運転経験はなかったので、初心者マークで毎日運転を頑張っています。

Q 和歌山へ移住を考えている方にメッセージ

A 思い切ることが大事…なんて大それたことではないと思います。移住したところで、東京は遠いとは思わないですし。気楽な決断が、新しく美しい環境が待っています。

Q 和歌山に移住して良かったと思うことは？

A 明らかに違う景色。自然。そういうものがごく身近に感じられること。天神崎や扇ヶ浜では、太陽が昇るのも沈むのも見えます。はっきり言って、ストレスがめちゃくちゃ減りました。



扇ヶ浜の夕陽。仕事終わりによく眺めに來ます。

Q 今勤めている会社に決めた理由は？【株式会社タチバナ(田辺市)】

A 紆余曲折ありましたが、いろいろな方に相談した末、地元をしっかり根を張って、地域住民からの信頼が厚いこの会社に決めました。今出来ることは今やる！が当たり前な、スピード感と勢いにびっぴりしています。

Q 休日等和歌山ライフの楽しみ方は？

A ふらっと港へ出て釣りをしたり。きれいな海、山、川…なんでもありますし、まだまだ出来ていないことが多いと思っています。和歌山県民ならではの出来ることは全部していきたいと思っています。



近所の港でサバの子供が釣れました。もちろんリリースしました。

## 起業



那智勝浦町に移住した  
佐藤 さゆりさん

Q 和歌山に移住しようと思ったキッカケは？

A 那智勝浦町の豊かな自然と温かい人々の中で子育てをしたいと思うようになったのがキッカケです。小さい頃からたくさんの方に触れて、感性豊かに育ってほしいと願っています。

Q 和歌山と東京圏の違いで、一番ビックリしたことは？

A どちらも大好きな場所で、それぞれに魅力的なところがあると思っています。その中で、時間の流れる速さが感覚的ですが違うなと感じています。

Q 和歌山で起業した理由は？

A 私自身、和歌山県那智勝浦町で生まれ育ちました。大学進学を機に上京し、進学・就職・結婚・出産・育児の期間を関東圏(神奈川→東京→神奈川)で過ごしてきました。家庭と仕事を両立する生活の中、子どもの成長を見守る中で、より豊かな環境で子どもたちと過ごしたいと思うようになったのがキッカケです。自分の原点に立ち返って故郷である那智勝浦町を見つめ直した時、子どもたちと過ごしたい環境がここにあること、そして観光資源が豊富な土地であることが、起業した理由です。



▲お店の外観「エルカミーノデルボエタ」(スペイン語で「詩人の道」)

Q 休日等和歌山ライフの楽しみ方は？

A ゆったりと流れる時間の中、子どもたちとともに自然の遊び場を楽しんでいます。裏の山へ虫捕りに出かけたり、近所の海に魚を捕りに出かけたり、清流で遊んだり休日だけでなく、平日の夕方や空いている少しの時間も満喫しています。



▲勝浦漁港の朝の様子(延縄生マクロの水揚げ日本一)



子どもたちと川遊び